

Campus Mail

For all the students

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

この件のお問い合わせは広報課へ
TEL : 092-606-0607
MAIL : kouhou@fit.ac.jp

掲示期間 2024・294
3月28日～4月16日

令和6年度 モノづくりセンター プロジェクト成果発表会を実施しました

3月13日（木）、モノづくりセンターでは「令和6年度プロジェクト成果発表会」を開催し、村山学長、倪副学長をはじめ、学生・附属城東高校生・教職員102名が参加しました。

今年度は19のプロジェクトが活動しました。それぞれの活動は学内にとどまらず、様々な大会への参加や地域貢献活動など、ますます学外に向けて広がりを果たした1年でした。

数仲モノづくりセンター長による開会挨拶の後、各プロジェクトの代表がプレゼン形式で活動報告を行い、課題や改善点等について発表しました。

年度初めに立てた計画に対する結果の考察、予算実績の報告、次年度に向けての抱負など、各活動に対する熱意が伝わるプレゼンが続き、城東高校生徒からも活動成果の発表がありました。それぞれの発表後には活発な質疑応答が行われ、今後の活動に繋がる有意義な場となりました。

最後に村山学長より、「モノづくりセンタープロジェクトのここ数年の活動の発展には目を見張るものがある。これからも切磋琢磨して活動を盛り上げてほしい」と講評があり、今年度の発表会を終了しました。来年度のプロジェクトの活躍がますます期待されます。



発表資料の例 <ロボコンプロジェクト>



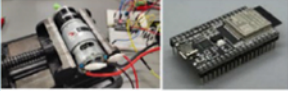
各プロジェクト代表 発表の様子



参加者全員で



発表会終了後のbuffet形式のプロジェクト学生交流会では、卒業する先輩学生から後輩に向けて「モノづくりセンターの様な素晴らしい施設は他にない、是非とも有効活用し、プロジェクト活動に励んでほしい」との激励メッセージが送られました！

■ 新技術開発		■ 点検・評価（成果と課題）
 高性能モーターを導入（ロボマスモーター）	 制御回路プリント基板化	成果 - 九州夏ロボコンは優勝できなかったが技術賞を受賞した。 - キャチロボは初参加ながら決勝トーナメントまで進んだ。 - 学内及び学外の地域貢献イベントに多数出展した。 - 学内ロボコンを通して技術継承と新技術の模索を行った。 課題 - 活動規模の拡大と多角化によるリソース不足 - 人手と予算の分散、1年生の放置状態 - 大会参加方針の見直しの必要性 - 九州夏ロボコンが競技の場として不十分 - 製作計画の遅延 - 練習時間を考慮しない 活動時間 (2024/4/1～2025/1/31) 合計 3346時間 1人当たり 239時間
	 モーター駆動回路の強化(300W) 高性能マイコンを導入(ESP32)	

モノづくりセンタープロジェクトとは

モノづくりセンターを利用して、学生が自由に参加できるモノづくりのチーム活動。1年間を通して PDCA サイクルに沿って活動し、モノづくりのスキルだけでなく技術者として活躍するための実践力を身につけます。気軽にプロジェクトに参加できるよう、活動費はもちろん、大会への参加費や製作費なども大学が全額支援。モノづくりに専念できる環境が整っています。また、地域のイベントなどにも積極的に参加し、地域の方々との関わりの中でも成長することができます。令和7年度は、エネワンカー、ロボコン、ロボット相撲、手作りアクセサリなど17のプロジェクトが活動します。